

特別速報レポート

国際石油情勢およびアジアプレミアム問題について －OPEC 事務局との意見交換－

エネルギー動向分析室長	小山 堅
計量分析部需要予測研究グループマネージャー	石田 博之
エネルギー動向分析室研究員	牧野 靖大

はじめに

（財）日本エネルギー経済研究所（IEEJ）は国際石油・エネルギー市場に関する相互理解と、同問題に対する精度の高い調査・分析のため、1987 年以来 OPEC 事務局との意見交換会を開催している。本レポートは 2002 年 7 月 4 日に開催された第 13 回 OPEC 事務局との意見交換会の概要をまとめたものである。

1. 今回の意見交換の概要

今回の意見交換会の実施にあたっては、昨年の意見交換会に引き続き、今後アジア石油消費国と OPEC 双方にとって最も重要な問題となり得る以下のポイントに関して議論を実施した¹。

- ・ 国際石油情勢とアジアの石油需給動向について
- ・ アジアプレミアム問題の解決に向けた取組みについて

また昨年の意見交換会の結果を踏まえ、今回の OPEC 事務局との議論をより有効なものにするため、中国、韓国の研究機関に対し交流会への参加を要請した。その結果、韓国エネルギー経済研究院（KEEI）が初めて意見交換会に参加することとなった²。

2. 今回の意見交換内容について

2-1. 国際石油情勢とアジアの石油需給動向について

- IEEJ から日本の短期石油需給見通し、KEEI からアジアの長期石油需給見通しに関するプレゼンテーションを実施した³。また OPEC 事務局より短期の世界石油需給見通し

¹ 昨年の意見交換会の概要に関しては、小山堅・石田博之・牧野靖大「アジアにおける石油高価格のインパクトおよび価格決定メカニズムについて－OPEC 事務局等との意見交換－」（日本エネルギー経済研究所 HP、2001 年 8 月掲載）を参照。

² OPEC 事務局との意見交換に先立ち、中国・国家発展計画委員会能源研究所を訪問し今回の意見交換会の概要説明を実施した。

³ 各プレゼンテーションの詳細については、Hiroyuki Ishida, “Japan’s Short-term Energy Outlook up

について報告があった。これら報告に基づき質疑応答および議論を実施した。

- OPEC は米国経済の先行き不透明感、またそれに伴う世界経済（特にアジア）への波及を懸念し、今後の石油需要動向についてかなり慎重な見方であった。2002 年の石油需要成長については対前年比 40 万 B/D 増と低めの予測の上、更なるダウンサイド・リスクにも懸念を示した。
- 石油需要の動向に懸念を示す中、OPEC は石油需要増大の中心となる事が見込まれるアジアの動向に強い関心を示した。しかし、東アジア（日本・中国・韓国）でも短期的には需要低迷の可能性が大きいとの見解であった。
- OPEC は、非 OPEC 加盟国の石油生産に関してロシアを中心に堅調に増大すると予測、2002 年の非 OPEC 加盟国の生産増加を対前年比 130 万 B/D と極めて高めに予測している。また、現時点での在庫水準が平年（1995-1997 年）と比較して高めの水準であること等から 6 月の総会では増産の見送りを決定、OPEC 事務局の現時点での需給見通しによれば第四四半期も対 OPEC 需要が増加しない可能性があることが指摘された。
- しかしながら石油市場の動向は今後も極めて不透明であり、需要動向、非 OPEC 加盟国生産、中東情勢に合わせて OPEC としては機動的に対応し、国際石油市場の安定化を図りつつける旨を表明した。
- この他に、エネルギー需給のモデル分析に関しては OPEC も実施しており、この分野での相互の協力は有益であるため、東アジアとの交流をより活発化し今後の分析に役立てたい旨の意見があった。

2-2. アジアプレミアム問題について

- アジアプレミアム問題に関して IEEJ より東アジアと中東（OPEC）産油国の相互依存関係認識の重要性、相互繁栄のためプレミアム問題解決のための取組みの重要性、問題解決のための具体案に関する基本概念を説明するプレゼンテーションを実施した⁴。
- 具体案に関する基本概念は、①活発で透明な先物取引が行われていること、中東産原油の欧米向の原油価格指標であり東西（日・米・欧）の価格差を比較しやすいことなどからマーカ原油として WTI やブレント（先物価格）を利用し、②調整項にはマーカ原油と対象原油の製品価値評価額差をシンガポール市場での石油製品価格と製品得率から計算しその値を利用する、というものである。
- これらの基本概念に基づき、①マーカ原油は WTI/ブレント平均、製品価格はシン

to FY2002”（IEEJ website homepage：<http://eneken.ieej.or.jp> 2002 年 7 月掲載）、Moon-Bae LEE, “Prospects of Asian Oil Market Issues. Concerning Oil Pricing in Asia”（IEEJ website homepage：<http://eneken.ieej.or.jp> 2002 年 7 月掲載）を参照。

⁴ プレゼンテーションの詳細については、Ken Koyama, “Towards a solution for Asia Premium”（IEEJ website homepage：<http://eneken.ieej.or.jp> 2002 年 7 月掲載）を参照。

ガポールスポット価格（Platt's）、製品得率は IEEJ の LP モデル試算結果を利用し、対象原油双方についてフレートを考慮しないという方法、⑧マーカ原油はブレント、製品価格はシンガポールスポット価格（PIW）、PIW ベースの製品得率を利用し、対象原油のうち中東産原油については中東－シンガポール間のフレートを考慮する方法、の 2 案について計算結果を説明した。

- なお計算結果では、1995 年以降について、④案ではバレルあたり平均 1.03 ドル、⑧案ではバレルあたり平均 1.14 ドル、アジアプレミアムが縮小することになっている。
- 次に KEEI から、アジアプレミアム問題は韓国も重視、東アジア共通の問題として IEEJ とともに取り組むことが重要との意見があった。また、IEEJ による問題解決のための具体策に関しては、詳細を検討する必要はあるが基本的には合理的な内容とのコメントがあった。
- これに対して OPEC 事務局からは、IEEJ 等の活動もあってアジアプレミアム問題が東アジア石油消費国にとっての重要関心事となっていることを認識するようになったこと、同問題を始めとするプライシング問題の究明・対応策検討を行う場が既にもたれていること等のコメントがあった。
- IEEJ による問題解決のための具体策に関する基本概念説明に対し OPEC 事務局は、その努力を評価する一方で新フォーミュラ設定などは拙速に行うべきでなく、慎重な検討が必要との姿勢を示した。
- なお、OPEC 事務局、IEEJ とともに直接の市場参加者ではないため、あくまでも実際の「売り手」および「買い手」の議論を促進する分析・情報整理を行い、問題解決のためのコンセプトワークを実施することが重要であるという点について見解が一致した。

2-3. その他

- OPEC 事務局は、アジアの石油問題や国際石油情勢に関する今回の意見交換会が極めて有意義であり、東アジアと OPEC 間の相互理解の深化・共通課題の把握と解決模索のため、意見交換の機会を継続・深化させたいと総括した。次年度は中国の参加も実現させ、より議論を深めたいとの要望もあった。
- なお、OPEC 事務局訪問に先立って意見交換のために訪問した中国・国家発展計画委員会能源研究所（能源研）では、アジアプレミアム問題には大きな関心があり能源研としても取り組んでいくことの必要性を感じていること、OPEC 事務局との意見交換会への参加に関しては前向きに検討するものの、国内での意見調整等これから検討・調整が必要との意見が示された。

以 上